

# 松前町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

人口減少と高齢者で唯一の地域公共交通である路線バスも、利用者数の減少により経営環境が悪化し、また、同じ町内でも遠隔地から中心部への運賃が高額となっていることから、高齢者などの生活弱者にとって利用しにくい環境となっていた。

地域住民誰もが安心して利用できる地域公共交通システムの構築するため、高齢者の外出機会や高校生の通学手段の確保、地域間幹線系統への接続も考慮した、地域内フィーダー系統（路線型）「大漁くんバス」を定額低運賃（100円）で平成26年10月に運行を開始し、地域住民の生活の足となるよう取り組みを進めているところである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

「大漁くんバス」人口1人当たりの年間利用回数

（※人口は申請年度の4/1現在とする）

実績 H28年10月～H29年9月 7.6回（H28年4月人口：7,922人 利用者数61,426人）

H29年10月～H30年9月 7.8回（H29年4月人口：7,681人 利用者数60,270人）

（H30年10月～R元年9月 7.6回（H30年4月人口：7,394人 利用者数55,976人））

目標 R元年10月～R2年9月 8.0回（H31年4月人口：7,136人 利用者数57,000人）

## 令和2年度事業概要

松前線5系統（地域生活バス「大漁くんバス」）の運行

## 地域公共交通の現況

- 地域生活バス「大漁くんバス」  
（町内・1路線・地域内フィーダー系統）
- 函館バス株式会社（3路線）
  - ・函館松前線（地域間幹線系統）
  - ・木古内松前線（地域間幹線系統）
  - ・小砂子線（上ノ国町地域内フィーダー系統）
- スクールバス（5路線）

## 協議会開催状況

- 令和元年6月27日 第28回協議会開催  
地域内フィーダー系統確保維持計画の承認、  
「大漁くんバス」の運行状況報告、  
「大漁くんバス」運行便等の見直し、  
「大漁くんバス」の運賃（増税対応）、  
さくらまつり期間中のシャトルバス運行実績
- 令和2年1月17日 第29回協議会開催  
事業評価の承認、  
「大漁くんバス」の運行実績報告、  
さくらまつり期間中のシャトルバス運行要請
- 令和2年7月16日 第30回協議会開催  
地域内フィーダー系統確保維持計画の承認、  
「大漁くんバス」の運行状況報告、  
さくらまつり期間中のシャトルバス運行中止について
- 令和3年1月6～15日 第31回協議会開催（書面）  
事業評価の承認、  
「大漁くんバス」の運行実績報告、  
「大漁くんバス」へのICカード乗車券導入、  
「大漁くんバス」の運賃改定  
さくらまつり期間中のシャトルバス運行要請

## 令和2年度事業の実施状況

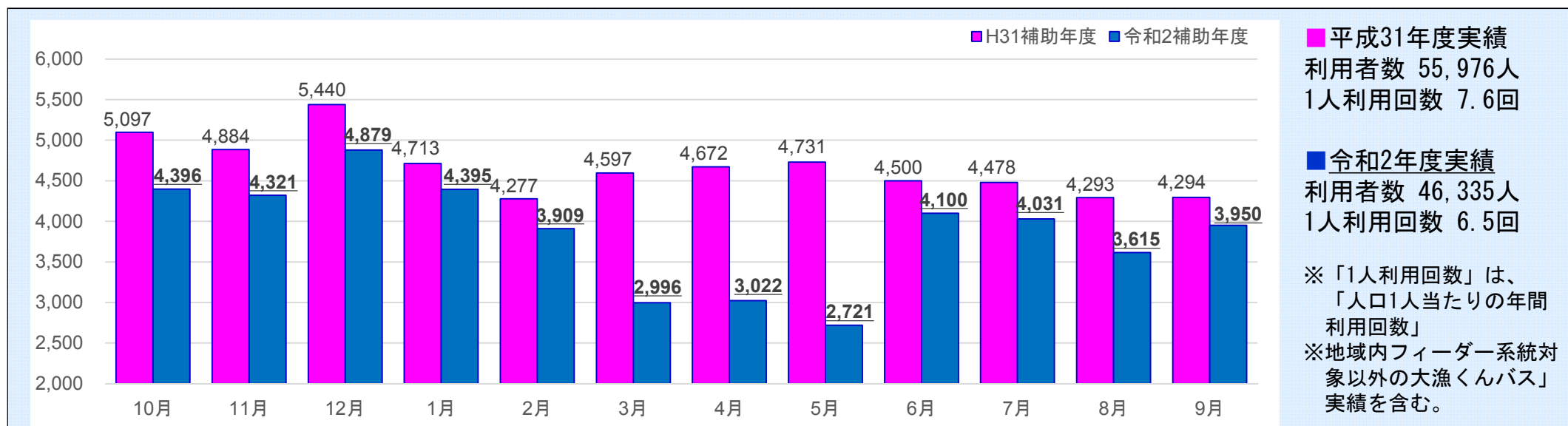
### 1) プロセス、創意工夫

- ・地域の路線バス空白地域の解消と高齢者の外出機会の確保、既存の町内路線、目的バスの一部を集約し、平成26年10月から定額低運賃（100円）の地域生活バス「大漁くんバス」を運行
- ・利用者からの要望、推移などを踏まえ、路線の延伸や減便など見直しを実施
- ・平成29年6月に「豊岡」及び「町営団地前」停留所にバス待合所を設置し、利用環境を向上
- ・平成30年10月、令和元年10月に町広報紙へ利用促進の特集記事を掲載
- ・時刻表をダイヤ改正の有無に関わらず年1回（4月）とダイヤ改正時に全戸配布

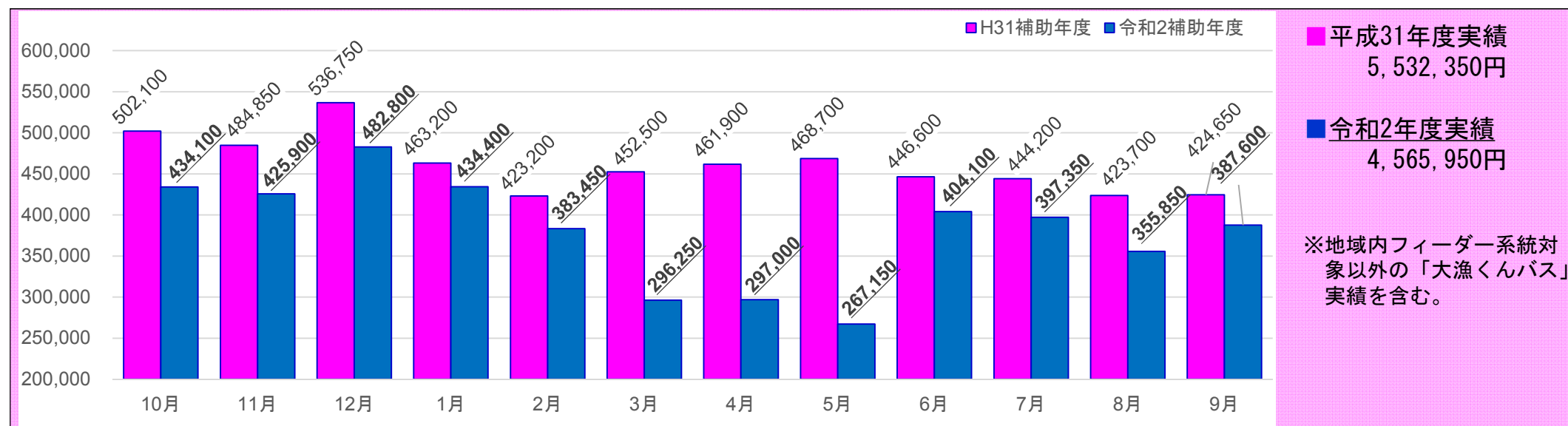
### 2) 運行系統



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績





## 5) 事業実施の適切性

事業の実施により、高齢者の外出促進や高校生の通学など地域住民の生活の足として利用されており、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

計画の目標として、利用者数の維持(高齢者の外出機会の促進)を掲げ、人口1人当たりの年間利用回数を8.0回(年間乗車人数57,000人)と設定したが、実績では6.5回(46,335人)と目標値を下回った。

新型コロナウイルス感染症の影響や人口の減少(前年比243人)や高校入学者の減少に伴う通学利用の減少が主な要因とみられる。

効果としては、住民の利便性向上と経済効果を掲げ、定額低運賃(100円)のバスとして定着し、買い物や通院などに幅広く利用されている。高齢者の外出機会の促進については、バス事業者への聞き取りや年金支給日には利用者が多くなる傾向にあり、人が動くことによる経済効果などで地域活性化につながっている。

## 7) 事業の今後の改善点

前年度に続き計画の目標値を下回った。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、また、人口減少に伴う利用者の減少を懸念していたとおりの結果となったが、今後も高齢化が進むにつれ、路線バスの確保維持の重要性は高まることから、今後も運行経路や運行ダイヤなど利用者のニーズを的確に把握し、ICカード乗車券を導入して町民のみならず観光客等の利便性の向上も図り、より利用しやすい環境を整えるとともに、町広報紙などによるPRを行い乗車人数を確保維持していきたい。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和3年度分と併せて評価)